

報告書

1 目的

令和3年度の取り組みに引き続き、下関の将来を担う若者の発想力・実行力を活かす人材育成モデルを構築するため、地域課題の解決をテーマに、以下を目的とするイノベーション創出型コンテストを開催した。

1. 地域課題に、IT やデジタルの力で取り組む意欲のある人材の育成

幅広い層の学生が、地域課題に関心を持ち、将来のイノベーションを生む人材になるきっかけをつくる

2. 多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくり

IT スキルのある学生、デザイン等を学んでいる学生などの繋がりをつくる

3. 新しいソリューションのタネづくり

ベンチャー企業との連携及び資金調達として各種ファンドや助成金などを活用した事業化へのきっかけをつくる

4. 地域課題の解決に向けた先進的イメージの発信

下関における、IT・デジタル技術を活用した先進的な取り組みの世間へ発信する

2 企画・運営

実施にあたっては、企画運営のアドバイスやメンター業務を特定非営利活動法人 STEM Leaders へ委託するとともに、デジコンの趣旨に賛同いただいた市内企業及び大学等から協力いただき企画・運営を行った。

- NPO 法人フードバンク山口 下関地区 大城 研司
- 株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸下関店 店長 田中 儀和
- 株式会社丸久 総務部長 田中 靖士
- 合同会社有機の里 職務執行者 西 光司
- 株式会社 etika 代表取締役 宮村 佳祐
- 合同会社 UTAGE.WORKS 代表社員 川嶋 光太郎
- 有限会社チエレスティアール 代表取締役 山口 玲央
- 株式会社リージョナルマネジメント 北尾 洋二
- 東亜大学 健康栄養学科講師 小木曾 洋一
- 梅光学院大学 特任教授 吉島 豊録

3 参加者

全 22 名。内訳は以下のとおり

市内大学・専門学校：20 名

- 下関市立大学 14 名
- 東亜大学 6 名

社会人：2 名

- 特定医療法人茜会 1 名
- 林兼コンピューター株式会社 1 名

4 主な活動内容

2022年9月17日（土）のキックオフから2023年1月14日（土）の最終審査会までの3ヶ月の間、今回のテーマであったフードロスやITの知識がない参加者が多い中、各チームで毎週Web会議を開催しながら、ヒアリングや勉強を通じてソリューションの検討を行った。

2022.9.17 キックオフイベント

下関市役所にてキックオフイベントを開催しました。当日は、下関市内の大学、企業から22名の学生・社会人にご参加いただきました。初対面にもかかわらず、ワークショップではお互いに意見を活発に交わす姿が見られました。キックオフイベントでは、前半に勉強会、後半にチームでの課題アイデア出しのワークショップを行いました。



2022.10.16 中間発表

初回の中間発表では、まずは各チームにフードロスに対する問題意識や取り組みたいと考えている課題、課題を解決するためのソリューション案について発表していただきました。

有識者の方々から、現場経験者ならではの観点や、アイデア実装の手法といったさまざまな観点から、各チームの発表に対してフィードバックをいただきました。

終了後は、引き続き有識者へ質問を行ったり、フィードバックコメントの生かし方や今後の活動の計画等について相談したりと、活発なチームアクティビティが行われました。



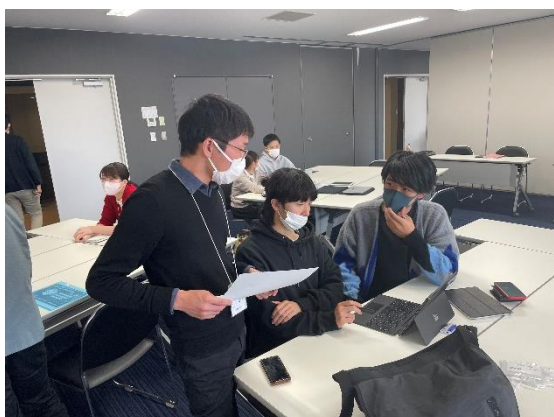
2022.11.5 中間発表

前回の中間発表から3週間、各チームは有識者からいただいたフィードバックを活かし、課題の深堀や具体的なソリューション案の検討を行ってきました。

2回目となる今回の中間発表では、各チームに自分たちが作るソリューションの案について発表していただきました。

審査員の方々からは、各チームの発表に対して有識者の方々から現場経験者ならではの観点はもちろん、ビジネス的な観点や技術的な実現可能性、ユーザー目線でのデザインなどについてフィードバックをいただきました。

終了後は、株式会社 etika の宮村様からプロダクトマネジメントについてビジネスサイドからの観点を講義を受け、その後は引き続き有識者へ質問を行ったり、フィードバックコメントの活かし方や今後の活動の計画等について相談したりと、活発なチームアクティビティが行われました。



2023.1.14 最終審査会

下関市役所において、最終審査会を開催しました。

全5チームによる発表が行われ、厳正なる審査のもと受賞チームを決定しました。

- 各チームの発表内容

	課題	ソリューション案
チーム A	規格外野菜の廃棄	大学に規格外野菜の出張直売所を設置し、出品されている野菜の種類や残量を LIVE 映像などで確認でき、農家との交流も図れるアプリ
チーム B	季節商品の売れ残り	季節行事終了直前又は行事終了後の商品を割引価格での競売形式で出品し、競り落とした客が割引価格で予約購入できるアプリ
チーム C	フードロス削減に取り組む人が少ない	家庭で発生する食品ロス(もう食べないもの等)を無償又は安価で出品し、出品された食品を欲しい人が購入できるアプリ
チーム D	家庭で余らせた食材の廃棄	家庭で余った食材の持ち寄り、小売店での野菜の売れ残りの購入、フードバンク山口にある食材の持ち寄りにより、楽しく食品を消費するイベントを企画・開催するアプリ
チーム E	購入した食品の使い忘れ	LINE 上でのオリジナルキャラクターによるリマインド機能により、野菜の使い忘れ防止・期限管理ができるアプリ

- 表彰 最優秀賞：チーム E 優秀賞：チーム D せきまる賞：チーム A



2023.2.27 最優秀賞受賞チームの市長訪問

最優秀賞を受賞したチーム E のメンバーの内 3 人が下関市役所を訪問し、前田市長にソリューションを提案しました。

前田市長からは、「食べる側ではなく作る側の目線で食品ロスをなくすという発想は面白い。実際に使うイメージが湧くような実現可能性を感じるソリューションだった。今後続けるメンバーもいるとのことなので、ぜひ実装に向けて頑張してほしい」と激励いただきました。



5 効果の検証

事業の実施目標として設定したKPIについては、チーム分けを5チームとしたため、デジタル技術やデバイスを活用した新しいサービスアイデア数は「5」となり、目標の「6」には届かなかった。

また、実施目的の効果を検証するため、デジコン終了後、参加者アンケートを実施した。(別添アンケート集計結果参照)

- 1. 地域課題に、IT やデジタルの力で取り組む意欲のある人材の育成
アンケート (Q3~Q7) の結果から、本デジコンの実施により地域課題に対する興味・関心を高めることができ、また、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことへの興味・関心を高めることができ、目的の人材育成に効果があったと言える。
- 2. 多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくり
本年度の取組においては下関市立大学の学生が参加者の大半を占めており、各チーム内で多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくりの形成を行うことが困難であったが、異なる所属学科や学年でのチーム構成に努めた。
また、チームによっては十分なコミュニケーションが取れていない状況も見受けられたため、運営によるバックアップや更なる工夫が必要と考える。
- 3. 新しいソリューションのタネづくり
アンケート (Q14) の結果から、デジコンでできたソリューションを今後引き続きプロジェクトとして進めていきたい参加者が3名おり、内2名は同チームであり残りのチームメンバー及びデジコンにご協力いただいた有識者のサポートを受けながら活動中、残りの1名は活動メンバーの確保について特定非営利活動法人 STEM Leaders に相談中である。
- 4. 地域課題の解決に向けた先進的イメージの発信
今後、提案されたソリューションが具体化・ビジネス化されるよう、STEM Leaders や関係機関と連携を図り、先進的なイメージ発信に向け取り組む。